

平成16年度鳥取市政懇話会第2回「地域づくり部会」議事要旨

日時：平成17年2月24日（木）  
午後1時30分～3時30分  
場所：市役所本庁舎4階会議室

出席者

【委員】乾委員、下石委員、神部委員、木村肇委員、田中委員、谷口委員、  
西尾委員、畑山委員、八村委員、福島委員、三田委員  
欠席委員 久本委員

【鳥取市】竹内市長、西澤企画推進部長、小田環境下水道部長

【事務局】羽場企画調整課長、高橋スタッフ、山本スタッフ

1. 開会  
2. 報告事項

部会長から副部会長に三田三香子委員を選任したこと及び事務局から今回のテーマ選出にあたってのアンケートの結果を報告。地域づくり部会は、「自然環境保全」「資源循環型社会の構築」を主テーマに議論することとした。

3. 議事

(1) 意見交換（録音状態が悪く主要な意見のみ掲載させていただきましたのでご了承ください。）

委員 環境を議論することはいいが、テーマが狭い。他のことはしなくてもいいか。

委員 前回もお話したが、限られた時間の中で漠然としては進めにくいので、ある程度焦点を絞って議論してそのなかでテーマ以外の意見が出てもいいのではないか。

竹内市長 総合計画の策定にあたっては、総合企画委員会が議論する。市政懇話会は、当面総合計画織り込む内容について議論いただきたい。地域づくり部会でテーマの絞込みの意見が出たが、自然環境の保全、循環型社会の形成といった切り口で議論していただく中で、地域の姿や市全体のあり方に結びついていくかということ念頭に置いて議論していただきたい。

委員 私のところには天文台があり、光が気になる。光害も視点としていただきたい。

委員 資料に市環境保全審議会があるが、どういう活動をしてどう機能しているか。

小田環境下水道部長 環境保全審議会は、現在の環境状況の報告や、チームを組んで環境の活動をしている。最近では青谷のバイパスあたりの環境影響調査やアセスメントの意見を述べるなどしている。

委員 市民一人一人が環境に配慮したライフスタイルを作っていかなければならないと思う。家庭でできる環境問題をまとめたパンフレットを作る。各家庭で目標ポイントを設定して数字で評価できる環境家計簿のようなものを作っていけば取り組みやすく意識も高まる。

委員 環境審議会は郡部の委員も入れていただきたい。

小田部長 任期満了に伴い、合併前に旧町村委員も入れた。

委員 条例はずいぶん昔からあるが、条文どおりに行えば、環境保全できる。自然保護協力員や環境美化推進員の活動はどうなっているか。

委員 審議会で問題点を出して意見提言をしているのか。

竹内市長 私の認識では、環境保全審議会は、意見を建議する活動まではしていない。

委員 委員同士で意見交換をしたい。

委員 自然環境保全、リサイクル社会を推進するという目的に向かった推進体制の議論をしたら。具体例として、ゴミを出さない、海岸整備砂丘一斉清掃を市民ぐるみで

実施する。オレゴン州が年2回南北500キロメートルをNPO法人が実施している。竹内市長 私も市役所へ通勤途中のゴミをひろっている。まちをきれいにする身近な所から取り組みをする。一斉清掃は市も行っている。

委員 県道沿いの山中にゴミの不法投棄が多くて困っている。みんなが意識してきれいにする。

委員 住民が参画できるごみ処理体制を推進する。特に生ゴミ処理機を家庭に設置してたい肥化する。

委員 環境推進員を全地区に設置して取り組む方策を検討する。

委員 環境家計簿などの取り組みをまず、モデル地区や女性団体などの取り組みでしていただく。また、リファレンスいなばがリサイクルをテーマにいろいろな活動をしてるが、リファレンスの広報車を走らせて、幼稚園などを回り、早い時期から勉強をさせる。

竹内市長 組織の具体的な活動の話も出たり、素晴らしいご意見もありました。ごみの収集は、合併を機に統一したが、ゴミ袋を新しくしたのはよかったが、ゴミある程度住民負担する考えを検討すべきという意見もある。ごみが鳥取市に集中して来るといことも言われる。ゴミ袋を新しくしたのはよかったのが、これによる弊害があるのと、ごみ処理の経費を個人が負担しない形になるので、ごみ減量化にもマイナスだということもある。ごみの有料化の検討と、ごみの減量のインセンティブ、動機づけを持ってやるために、例えばごみの減量化をしたら、その分地域に補助金みたいな形で、減量化のパーセントというか、量によってエコマネーのような形で還元して、それぞれゴミ袋でも買えるようにするというようなことをこれから十分検討する必要があると思っています。

委員 子どもが空き缶を学校に持って行くと図書券で還元した。ゴミ置き場がゴミ捨て場になる。「ゴミは自治体負担」というのは大きな間違い。

竹内市長 単純に有料化するだけでは能がない。何かインセンティブを与えるような方式を含めて、いい案が出てくれば、その一つの基本的な発想として、ごみの資源化やできるだけリサイクルしていくということが今の21世紀の環境の時代のある行き方だということをもまず説明して唱えた上で結局減量化とリサイクルだとか地球環境保全など。

委員 方策は一つではない。以下に市民に関心を持ってもらうか。環境家計簿、3R運動どのように行っていくか。企業や団体も取り組んで、官民あげての取り組みをして優秀なところに表彰して賞金も出す。そしてマスコミに記事にしてもらう。

委員 公民館単位で取り組んで発表する。

委員 地区公民館が、子供会活動で川をきれいにする。コミュニティの最小単位として公民館がよい。

委員 地域のシンボリックなところをみんなできれいにする。鳥取市はやはり砂丘がシンボリックなので、海岸線を清掃する。

竹内市長 市民がぱあっと海に出て海岸をきれいにする。今度は山に行ってきれいにする。海と山を清掃してエコマネーを発行してもよい。どんどん参加してもらえば、川にものを捨てたり、海や山に捨てられている姿を見ると、何とかしなければという気持ちになる。何かシンボリックがいるのはそう思う。

委員 よい活動をしている団体のネットワークを広げる。

事務局(高橋) 今日の議論を踏まえて、8次総への意見・提言の素案を作り皆さんへ事前に配布しますので、またご意見がありましたら事務局へお返してください。

#### 4. 閉会